

第3回 2019年6月12日(水)

第3回一流塾では、講師に大田弘子氏（政策研究大学院大学教授、内閣府規制改革推進会議議長、元経済財政政策担当大臣）と岩田彰一郎氏（アスクル株式会社代表取締役社長兼 CEO）を、懇親会の特別ゲストには城島光力氏（元財務大臣、元民主党国会対策委員長）をお迎えしました。また、懇親会には一流塾特別顧問の福川伸次氏（（一財）地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長、元通商産業事務次官）と一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産株式会社副社長）にもご出席頂きました。

第1部では、『日本経済の成長戦略』と題して大田氏が講義を行いました。大田氏は、「内閣府規制改革推進会議」議長として、安倍政権の政策の一翼を担われており、大手企業の社外取締役等も歴任されるなど、幅広くご活躍されています。講義の冒頭、日本経済の潜在成長率の推移を示しながら、90年代以降のグローバル化と高齢化に対応できずに抱えた3つの弱みについてご説明され、日本の競争力の低下に対する強い危機感を示されました。そのうえで、これを克服するための成長戦略の必要性、特に生産性の向上を強く訴えられ、日本企業が苦手とする破壊的イノベーションを起こし、企業の新陳代謝を高め、生産性を向上させることが不可欠であると話されました。そして、イノベーションを阻害している規制改革への取組みについて「出島」の試みなど具体例を挙げてご紹介頂きました。終盤には、日本企業の潜在力を開花させるために、変わることを避けない、恐れず、異質なものの受け入れて“内なる改革”を進めることが重要で、組織の魅力であるブランドを作るために想像力を発揮して欲しいと強調されました。塾生からは、「変わらない日本の構造を非常に分かりやすくご説明いただき大変参考になった」、「『まずやってみよう』の精神によるイノベーションの取組みが印象的でした」などの感想が寄せられました。



【講師 大田氏】

第2部では、『アスクルのイノベーション』と題して岩田氏が講義を行いました。講義の冒頭、アスクルが誕生するまでの苦難の道のりと業界トップでありながら、劇的な変化の時代に小売業としてどう生き残るか常に考え、新たな流通モデルを開発し、BtoC事業へ参入した決断の背景や他社にビッグデータを開放したオープンイノベーションの推進（メーカーとの共創）、EC革命についてご紹介頂きました。全ては「お客様のために」を第一とし、三方良しの精神で、常に進化し続ける取組みを塾生に熱く語って頂きました。塾生からは、「メーカーとの共創という取組み。ビッグデータの開放によりお客様とメーカーを直接繋ぐ取組みについて大変参考になりました」「短期間で日本を代表するEC企業に成長されたのは意思と大義と正義が重要と感銘を受けた」「私たちにとってお客様は誰なのか、お客様以外は仲間だ。改めて気づきをいただきました」といった感想が寄せられました。



【講師 岩田氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに福川氏による乾杯の後、特別ゲストの城島氏から『百術は一誠に如かず』と題して卓話を頂きました。大学を卒業後大手食品メーカーの研究所に入所され、職場の労働組合の中央執行委員まで昇りつめ沢山の早期退職者と面談した経験から、労働者の気持ちがわかる衆議院議員として政界に飛び込み「一つの誠を貫くものにならうものなし」という精神で取り組まれた数々の政治活動の苦労話を中心にお話しいただきました。歓談の途中には渡邊氏にもご挨拶いただき、大いに盛り上がりました。懇親会後には、塾生有志による塾長を囲む放談会が開催され、スペシャルゲストとして官僚の方にお越し頂き、キャッシュレスとFINTECHの考え方などをわかりやすくお話しくださり、塾生も熱心に聞き入り、有意義な時間となりました。



【特別ゲスト 城島氏】



【懇親会風景】



【談会風景】